第２６号

大垣教区
坊守会だより

２０１９年８月１日発行

発行所］岐阜県大垣市伝馬町11
真宗大谷派　大垣教務所内　大垣教区坊守会

1989（平成元）年 第１号発行
巻頭写真　一日研修錦織寺

大垣教区
坊守会だより
第１号
発行日　平成元年八月二十日
発行所　大垣市伝馬町　大谷派　大垣教務所内　大垣教区坊守会

～特集～
坊守会だより
30年のあゆみ

大垣教区坊守会だより創刊三十年に寄せて

大垣教務所長　譽田　和人

新しい年度を迎え坊守の皆さまにはご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より大垣教区の諸活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。『大垣教区坊守会だより』が創刊から三十年を迎え、このたび特集号を発刊されますこと心よりお祝い申し上げます。今後ともこの『たより』が信心の生活の励ましとなることを切に念じあげます。

蓮如上人が吉崎におられた時、現在の坊守にあたる多屋の内方に『御文』を度々だされております。有名なものに報恩講結願の翌朝に読まれる「お浚へ」の御文があります。報恩講にて信心を決定しても、そのままにしておけば溝も落葉で詰まるように信心も失せてしまう。心がけて溝をさらい法水を流すようにと聞法を怠らないことを呼びかけておられます。（第二帖一通）実はこれには「睡眠」の御文といわれる前段の出来事が由来しております。（第一帖八通）

七歳で母を亡くし禅寺に喝食に出された次女の見玉尼は二十三歳で上人を慕って吉崎に来るが重い病に罹る。「睡眠の御文」は明日をも知れない見玉尼と、その傍でなんの疑いもなくお喋りをする内方の場面である。上人は鴨居の向うへこの御文を投げ入れる。内方達は驚きその後熱心に聴聞し、見玉尼の死後初めての報恩講が勤まる。多屋達の姿勢を喜びながらも油断なきようにと「お浚いの御文」を届けるのであります。

寺を運営する、病人がでる、身内が亡くなる。私たちは生きている限りさまざまな厄介に追いまくられます。境遇を恨んだり他人を羨んだり、時にはこの場から消え去りたいとさえ思うのが日常の私たちであります。そのような私たちに「いのちのうちに、不審もとくとくはれられそうらわでは、さだめて後悔のみにてそうらわんずるぞ」と上人は呼びかけられるのです。

考えてみれば五百五十年前の坊守も大変だったということですが、眠たい夏に向け蓮如上人の恋文を読んでみませんか。

大垣教区坊守会の成り立ちと機関紙発刊まで

教区坊守会の現行規約より前の規約は一九五八（昭和三三）年、坊守会連盟結成の年に制定されました。それより前の教区坊守会の様子は不明ですが、規約も整え、連盟の事業にも参加する等、三十年間の活動を経て、一九八九（平成元）年八月、第一号機関紙が発行されました。左は当時の会長である第一組乗蓮寺藤照子様の巻頭言「発刊にあたっての」の一部です。坊守会だより誕生への喜びと坊守会活動への意気込みが伝わってきます。

この度、念願でありました坊守会だよりが誕生致しました。これもみなさんのおかげと心から感謝致します。

未熟な私が大役をおゝせつかり、戸惑っている時、理解ある役員様にささえられ、共に聞法のご縁をいただいて二年がすぎました。今後も坊守会が学習聞法の場として残された一年間を、聞法や親睦を通して、寺のあり方坊守のあり方を問いながら、人間としての視野を広め深めて行けたらと存じます。

年一回発行と宗門情勢の変化
蓮如上人五百回御遠忌に向けて

二～三年ごとの発行であった機関紙は、一九九七（平成九）年の第四号から**年一回の発行**となりました。当時、女性住職就任制限改正、女性室設置があり、第四号編集後記には「『女性の宗門活動に関する宗務審議会』答申などに目を通し」「坊守ひとりひとりが主体的に取り組まなくては」「この坊守会だよりが他組との交流の一助となれば」と記され、年一回発行も意識の変化を反映したものでしょうか。

翌一九九八（平成一〇）年第五号には蓮如上人五百回御遠忌法要記念**「全国坊守千人の集い」**参加者の感激の声が伝えられています。

四月一日、「全国坊守千人の集い」に大垣教区坊守会からバス一台、三十三名が参加しました。蓮如上人五百回御遠忌法要記念大会として全国から集まった坊守は、午後三時、本山阿弥陀堂を埋めつくしました。同じ様に寺に身を置き、真宗のみ教えを依りどころに、この混沌とした世の中を生活している寺院坊守達の初めての集いでした。

この年、「臨時措置条例」（住職の男性配偶者について坊守規定は適用しない）を巡って、「坊守とは？」を問いかけるべく、教区坊守会によるアンケートが実施されました。（下は第5号「アンケートの結果から」抜粋）

ご多忙の中、アンケートにご協力をいただきありがとうございました。

大垣教区坊守加入寺院数397に対して回答をおよせいただいた寺院数は287と72.8％の回収率でした。

坊守は従来通り住職の配偶者が…。という考え方が半数近くありました。しかし少数の方から何ら疑問も覚えることなく前坊守から引きついで来ましたが「坊守とは？」を考えるよい機会であった、といったご意見がありました。

「坊守」という役職及びその任務については、現行どおりで良いが全体の85％を占めておりました。住職のサポート的な陰の存在としてではなく寺の宗教活動を共に担っていく上で、もっと研修をすべきではないか、といった考え方が多数ありました。

研修・学習会・講習・聞法をといったご意見を今一度整理して、組での学習会また大垣教区坊守学習会等で少しでも生かして行きたいと考えております。

女性法要の感動を伝える紙面

二〇〇〇（平成十二）年、臨時措置条例がそのまま本則となりましたが（二〇〇八年改正で坊守の性別制限廃止）、「坊守とは？」という真摯な問いかけを経て先輩方は次なる行動に取り組みます。二〇〇二（平成十四）年大垣別院蓮如上人五百回御遠忌における**別院開基以来初めての「女性法要」**です。左は当時の会長である第五組蓮成寺泓満子様の前年発行の第八号**（この号からA4化）**巻頭言の一部です。前年から、百人女性法要を合言葉に毎月の声明作法講座の他、坊守会懇志金により同朋会館門幕・同取付金具工事も行われました。

来年四月、大垣別院にて蓮如上人五百回御遠忌法要が厳修されます。この勝縁に、女性寺族中心の法要を営ませて頂きます。宗祖親鸞聖人の御影の御前で「真実の浄土真宗」を我が身に明らかにし、御同朋・御同行の方々と共に、声高らかに声明念仏の輪が広がり感動を共に出来ますれば、この上ない幸に存じます。どうか、お一人でも多くの方の参加、心よりお願い申します。

二〇〇二年第九号紙面掲載参加者感想

○御門徒とともに○

初めて経験する出仕に夢中で声を合わせ、

終わる頃には目の前がかすむ思いでしたが、満堂の御門徒の真剣なまなざしとよろこびの顔に出会いました。このご縁によりすべての人が同じ感動を味わい得たのだと脳裏に刻み込まれた御遠忌でした。

○遇い難いご縁にあって○

厳かにお内陣出仕の時を迎える。宗派も違う在家から嫁いだ私を導いてくれた義父の裳附をまとっての私がある。記念すべきこの佳き日になんともったいない御法縁をいただいたことでございましょう。坊守として一層精進しなければと思っております。

二〇〇六年度には教区坊守会に**「坊守会だより編集員」**の役職が設置されました。

女性法要は、二〇〇八（平成二〇）年三月、「大垣教区坊守会　連盟結成五十周年記念の集い」でも勤められました。同年四月一日には、連盟の五十周年記念式が真宗本廟阿弥陀堂にて開催されました（六十周年記念事業は六～七頁に特集）。二〇〇九年第十九号には、当時の海老原章教務所長様の巻頭言に「坊守会連盟は一九五八年親鸞聖人七百回御遠忌お待ち受けの中、御正忌報恩講中に結成され」とあります。連盟・教区五十周年事業は七百五十回御遠忌のお待ち受けの中、実施され、御遠忌期間中には、全国坊守大会が予定されていたところ、直前の二〇一一（平成二三）年三月、東日本を千年に一度ともいわれる大災害が襲ったのでした。

全国坊守大会と東日本大震災

二〇一一年五月開催の全国坊守大会（一日研修）を報告する第十八号**（この号から十二ページ建てが定着）**には「様々な意見が飛び交うなか、全国坊守大会が予定通り開催される運び」「ご門首のお言葉には大災害における被災地の方々への思いが溢れ」「仙台教区の発表では、会場のあちらこちらですすり泣き」「仙台教区の坊守さんが最後に『ガンバッテいます。

心配しないでください。』と逆に励まされてしまいました。」「全国坊守大会に参加することは、一人の女性真宗門徒として、大切なご仏事にご縁をいただいたことと喜んでいます。」とあります。前ページ写真左端の教区坊守会テーマの手作り幟旗は、二〇一三年の千百人参加の全国坊守同朋大会でも、他の教区の幟旗とともに満堂の御影堂内を飾ることとなりました。

行動する坊守会

東日本大震災の年二〇一一年第十八号の編集後記に「私達一人一人が今できることを、と救援金の募金をお願い致しましたところ総額は百二十九万八千円」とあるように坊守会による復興支援活動が始まりました。二〇一四年第二一号には前年の福島現地学習会参加報告記事があり、二〇一六年二三号には前年十月の「東日本大震災現地視察」が特集されています。記事には本堂全壊の被災寺院の存続を決めた御住職の「寺の歴史はなんとなく続くものではなく、繋げようという意思が必要。先住の意思を継ぎ、苦を乗り越える場としてこの寺を守り抜く」という言葉に「道場として始まった多くの真宗寺院の原点。私の立脚点を問われた。」と感慨深く記されています。

二〇一四年は教区御遠忌お待ち受け（二二号）、二〇一五年は教区御遠忌法要（二三号、**この号から一部カラー印刷**）、二〇一六年は連区坊守研修会の当番教区（二四号）として、エネルギッシュに活動する様子が紙面から読み取れます。左は二四号紙面から。

教如上人を訪ねる

親鸞聖人が開かれた浄土真宗が、東西に分かれたことは知っていても、東の開基が教如上人だということをご存知でしたか？

今回東海連区坊守研修会の当番が大垣教区ということで、親睦会の余興を例年とは違った形でやろうと声が上がりました。何をするか考えたところ、地元に縁（ゆかり）のある「教如上人」を映像とともに語りべで紹介するということになりました。余興担当五人は、まず自分たちが教如上人を学ぼう…と縁のお寺を訪ねることにしました。そして、原稿を何度も手直しし、パソコンで映像を作成、研修会当日まで寸劇の練習を重ね、親睦会の席でご披露しました。

岡本学教務所長（当時）、花山孝介講師も鋤、鎌を持った屈強な門徒衆に扮して熱演されました。

義援金バザー開催

今年度、行動する坊守会の面目躍如となったのは大垣別院、高須別院報恩講にて行った義援金バザーです。東日本大震災、熊本地震に加え、平成三十年の北海道胆振東部地震、大阪北部地震、七月豪雨の被災地域支援のため、会員各位にバザー出品のお願いをしたところ、多くの会員から数多くの品物が寄贈され、値付け作業にも多数の会員の協力をいただき、盛況裡に終了しました。収益金一八七、二五二円は、坊守会連盟に送金させていただきました。多くの御寺院、バザーにお越しいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

東海連区坊守研修会報告

2019.5.15～5.16岐阜都ホテル

研修テーマ　眼（まなこ）を開く　心（こころ）を開く

～今を生きる我が身をみつめて～

講　　師　藤原正寿　氏

講　　題　現代と親鸞―人間とは何か―

第一組　徳蔵寺　淵　眞弓

鵜飼の開幕から間もない清流長良川を眼下に臨み、東海連区坊守研修会が開催されました。講師に大谷大学より藤原正寿先生をお迎えし、昨年の親鸞フォーラム（注）「ＡＩ×ゴリラ×仏教―人間とは何か―」において、人工知能の専門家、ゴリラ研究者、仏教学者が各々の視点から人間とは何かについて述べられた論旨を用いての大変興味深いお話を聴かせていただきました。（注＝主催真宗大谷派東本願寺真宗会館　後援大谷大学）

車や家電一つとってみても、我々の生活に人工知能は欠かせないものとなりました。果たしてこの現代に親鸞の教えが通用するのか？と問われます。人間と違ってミスしないＡＩが将来は人間の八割の仕事をしてくれる。益々豊かな生活が来るとＡＩ専門家。一方、ヒトはどうしてヒトになったのかを知ろうとゴリラの研究を始めた研究者は「ゴリラから進化して地域社会を作り、弱い者同志助けあって身につけた人間だけが持つ共感能力を、現代は見失っている。更に、いつの間にか一人で生きていけるとまで思っているのだ。この人のエゴに依って、もはや進化ではなく退化に入っている」と。そして「お寺ばなれ」を嘆く私達に向けて、「ヒトが人であることを見失った時、寺が説いてくれなくてどうするのですか。本当に真理が語られ伝えられていけば、必ず人はいつか寺に集まる。自分の生活の為にお寺を利用してはいまいか」と語られたのです。これら研究者の議論は正に頷く外ないのですが、その先が見えずに身動き一つせず、傍観者になっている私でありながらも、今回、私なりに受けとらせて戴いたものを糧に、聞けばわかるのではなく、聞かねばならない自分であることを心に留めていたいものです。

藤原先生は、「人は、文明は明るい世界だと思っているが、親鸞聖人は無明の闇と言われる。そして私たちは、その無明の闇に気づかない。自分の眼で見て、自分の物差しで判断している。自分さえ良ければという者同志が、共に仏様の本願という乗り物に乗っているなかまだということに気づくことが信心、即ち浄土である」と説いて下さいました。講義冒頭での「阿弥陀様は前かがみになっておられます。人々を救おうと前かがみになった姿で現されているのです。」という言葉が胸に沁みて参ります。そして、一昨年、大垣教区の坊守研修会で聴講した海法龍先生の「聞法を通して教えに出会ってきた人である『門徒』に立ち返るべき」ということばが甦って参りました。

班別座談会では、各々のお寺の実情を聞かせて頂きました。めまぐるしく変わる時代と共に寺も変わってゆかねばと語られたことも印象的です。

岐阜教区の皆様には、心からのおもてなしを頂き、多くの方々とのご縁をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

岐阜教区合唱団「サラナン」の皆さん

真宗大谷派坊守会連盟結成六十周年記念

坊守研修会

開催期間　二〇一九年四月九日～十一日
会　　場　真宗本廟・同朋会館・和敬堂・研修道場・視聴覚ホール
参 加 者　全国三十教区一九七名

坊守会連盟は、連盟テーマ「いま、寺に生きる～問いとともに歩む生活を～」のもと、二〇一七年度から結成六十周年記念事業の企画に取り組み、今回の坊守研修会が左記の趣旨（抜粋）のもと開催されました。

真宗大谷派坊守会連盟は二〇一八年十一月、結成六十周年を迎えました。

私たちはそれぞれにご縁をいただいて坊守としてお寺に身を置いています。そして、それぞれが真宗門徒です。しかし、同時に、真宗門徒としての自覚とよりどころが定まらないのも私たちの相です。連盟テーマのもと、そのことを聞法の生活を通して確認したいと思います。このたびの記念事業は、二泊三日の研修会として開催します。坊守の歴史を学びつつ、坊守が一人の真宗門徒として教えを聞き、この研修会が御同朋の広く深い出遇いの場となることを願っています。

かった明治・大正・戦前の昭和、大正の「住職の内助を全からしむる為め」の坊守規程制定、戦時下の女子得度許可と住職代務者就任許可、そして平成の女性住職誕生に至る明治以降百五十年の宗門における女性の歴史について、社会情勢と関連づけてお話いただきました。聞取り調査の記録には「坊守という届けをすることすら知らずに、五十年、六十年も寺のために身を粉にして働きながら、亡くなった時、坊守としての弔辞すらいただかずに逝かれる坊守さんがいっぱいあったのです。」と残されており、泉惠機先生の「先輩たちの、鼓動や息吹を、その喜びと悲しみを紙背に見出し、見出すことによって見出す者の鼓動とそれが一つになるとき、『歴史に出遭う』と、それを名づける」の通り、歴史に出遭う時間となりました。

臨時女子教師検定合格者1944年

呼びかけのことば

二〇一八年十一月二三日真宗大谷派坊守会連盟は、結成六十周年を迎えました。恵信尼公が法然上人に「よき坊守」と仰せいただいてからおよそ八百年。私たちは住職とともにお寺に住まいし、教えを聞かせていただいてきました。一九二五（大正十四）年「坊守規程」が制定され宗門においてはじめて坊守が規定されました。当時の規程では、住職の内助、門信徒の規範となることが坊守に望まれていました。

先の大戦中は住職の出征によって不在のお寺の法務を担うために、坊守に得度が許可され、お寺を守ってきた経緯があります。戦後、民主主義に触れ、価値観が一変し、女性の社会進出が進んでいきました。そのような時代変化の中で一九五八（昭和三三）年十一月二三日真宗大谷派坊守会連盟が結成されました。

連盟は宗門に対して坊守自らのことにとどまらず、宗門における女性の在り方についても繰り返し要望したこともあり、一九九一（平成三）年には女性に住職の道が開かれ、得度年齢の男女格差もなくなりました。このように制度改革は少しずつ進んできていますが、果たして意識はそれに伴っているのでしょうか。私たちはその責任を外へ問いがちです。しかしこれは、私たち自身も問われるべき問題であり、坊

第一日開会式

午後一時半御影堂において開会式。真宗宗歌、勤行のあと御門首、但馬宗務総長、花下連盟委員長の挨拶。御門首から親しく「記念事業を機縁として、親鸞聖人が顕かにされたみ教えをよりどころとし、ますます法義相続・本廟護持に尽力願いたい」とのお言葉を賜りました。御門首夫妻は記念撮影にもご一緒して下さいました。

第二日午前講義①

講師は解放運動推進本部委員の山内小夜子先生。講題は連盟テーマと同じ「いま寺に生きる～問いとともに歩む生活を～」。問いを持つと孤独になる、問いは外からくる、問いは逃げないという宣言であるとの説明でした。講義は開催趣旨を受け、坊守の歴史を振り返るものでしたが、前夜の感話で、五十周年の研修会に参加した方から七十周年への思いが披露されており、講義冒頭の「前に生まれん者は後を導き、後に生まれんものは前を訪え」(教行信証・化身土巻)の言葉を実感をもって受け止めることができました。資料に基づき、女性の得度が認められな

第二日午後・第三日午前講義②・③

講義②の講師は四国教区善照寺住職の真城義麿先生でした。講題は「六字のみ名をとなえつつ」。資料に基づき、寺は何のためにあるのか、仏教は何を教えるのかなど、聞法の場であるお寺について改めて原点に戻って考えるお話をいただきました。念仏道場、本尊を安置し、法を聞く場である開かれた場所であるお寺。坊守とは生き方を含めた職業・仕事であること、そして坊守は、「仏法の共有と相続」のために「道場（坊、寺）を維持する（相続する）」つまり、場をととのえ開き続ける役割があることを示されました。

講義③では現代における人々の抱える問題を通して、宗教者としての在り方についてのお話をいただきました。本来、宗教者とは生き方であり職業ではありません。しかし、実際は葬祭業従事者の資格化など、逆行していることが示され、改めて聞法の場であるお寺、宗教の力というものについて学ぶ機会をいただきました。

第三日午後閉会式

連盟常任委員一同から、下段の「呼びかけ」があり、視聴覚ホールに集った二百人はそれに応え「私という坊守」の新たな一歩をそれぞれ思い描きました。

守の課題を自分のこととして向き合ってこなかったからではないでしょうか。

お寺に身を置く私たちは、お念仏の教えに出遇いたいという願いを持ってきました。一方で、少子高齢化・過疎過密・格差社会等の不安定な社会情勢と、お寺離れ・儀式の簡素簡略化傾向に危機感を募らせ、教えを聞き伝える場としてのお寺の役割よりも寺院存続の在り方に悩み苦しむ現実もあります。

このような中で迎えた六十周年です。

教えを聞き伝える「寺（ここ）」が真のよりどころとなり、私たちは、そこをよりどころとして生きているのでしょうか。教えに我が身を照らし問い続けていくことは、真宗門徒として大切なことです。

坊守という呼び名に縛られることなく、描いた坊守像に怯えることなく、自ら坊守と名告（な）り、六十一年目の新たな一歩を全国の坊守さんとともに歩み出していきましょう。

大垣教区からは四組田中ひとみ、五組林恵子、六組谷純子、十二組菅沼登志子、十三組藤永和子、十四組大橋千早、十五組田中広美、十七組老泉なおみが参加しました。ありがたいご縁をいただけたことに一同深く深く感謝しております。

坊守会一日研修

二〇十九年六月十四日　三十四名参加

向源寺と五村別院・長浜別院を参拝して

第六組　法泉寺　勝　智子

最初に参拝した長浜市渡岸寺の向源寺には、国宝十一面観音像が安置されています。向源寺は真宗大谷派ですので国宝指定の際、飛地境内にある渡岸寺観音堂に祀るとして本山から許可を得たとのことです。松室住職様から、この十一面観音は戦国時代の織田信長と浅井長政による姉川の戦いの折、戦火の中、住職と門徒衆らにより、やむなく土中に埋蔵して守られた、との説明を受けました。驚いたことに、観音像はガラスケースに安置されておらず、そのために間近で拝顔でき、正面からだけでなく背面に回り、像の後頭部にある「最悪大笑面」というお顔も拝顔できました。頂上仏面が菩薩相で、五体の化仏がある他は密教像特有のインドを思わせる造りになっていました。

（撮影禁止のため長浜観光協会等「長浜米原を楽しむ観光情報サイト」から転載）

二メートル近くもある大きな像ですが、大きな耳飾りに美しい立ち姿はつい見惚れてしまう程でした。向源寺の十一面観音は、国宝に指定された七体の十一面観音像の中でも一番美しいと言われ、慈悲に満ちたお姿でした。

次に参拝した五村別院は、本願寺第十二世となるも、豊臣家の命により隠退処分を受けた教如上人を慕う大村刑部ら門徒衆によって、慶長二年に五村の土地が寄進されて建立したのが始まりとされています。京都に東本願寺が建立された後、五村の御堂は「五村懸所」「元の本山」と称されるようになったそうです。五村別院にて長浜教区の坊守会長、副会長様から「豆腐白玉のいとこ煮風」でおもてなしを受け、湖北の門徒衆から「五村御坊」として深く親しまれている所以を知りました。また教如上人の遺骨(分骨)が納められている御廟を参拝させていただきました。

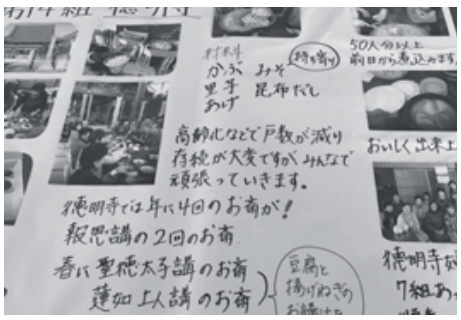
蓮如上人御影
道中の輿の展示

最後に長浜別院を参拝しました。長浜別院は無礙智山大通寺といい、長浜御坊の名で親しまれています。教如上人が湖北の門徒に仏法を説き広めるため、道場を長浜城跡に開いたことが始まりです。（その後現在地に移転）長浜別院には、伏見桃山城の遺構と伝わる本堂や大広間、長浜城の追手門を移築した脇門、狩野山楽・山雪、円山応挙によって描かれた内部の障壁の客間があり、歴史の重みを感じました。

当時の人々から現在に続く深く篤い信心と伝承・継承の大切さについて改めて学ぶことができた研修会となりました。

長浜教区坊守会のお斎パネル展

長浜別院・五村別院はこの五月に親鸞聖人七百五十回御遠忌を勤められたところですが、長浜教区坊守会は、法要期間中の御遠忌パネル展に教区内十七か寺の報恩講等のお斎を取材して展示し、お日中にはお参りの方に豆腐白玉のおもてなしをされました。この日も、パネル展示を畳に広げて見せていただきました。ありがとうございました。



～作ること、食べることは人をつなげる～
お斎は大切な仏事の一つではないでしょうか？

教区坊守会研修会

第１回　2018年９月10日/参加者29名
テーマ：寺族として・衣体の扱い　　講　師：平等良香　師

どの学習会に参加しても思うことだが、普段から不勉強な自分には、何より言葉が難しい。耳慣れない言葉に翻弄されてしまう。今回は平等先生の素晴らしい説明で、満足度の高い学習会となった。「道場荘厳」「威儀荘厳」「音声荘厳」という大切な三つの荘厳について学んだ。威儀荘厳については、少人数のグループに分かれ、直綴を畳むという演習も行った。普段、装束を身に着けないため、手技をすっかり忘れ、同じグループの人に教えてもらいながらの実施となった。荘厳と聞くだけで及び腰となる自分だが、改めて荘厳の大切さと自分自身で行うことの必要性を感じた。それぞれの荘厳について教えていただく中で、坊守の役割など「真宗における女性の役割」を女性から見た視点でお話いただいた。その中で印象的だったのは「女性がお勤めを子どもに教える方がいい」という言葉で、この部分だけを取りあげると「内的なことは女性の役割」と解釈し、寂しい思いをするのだが、平等先生は変声期前の男児の声の高さから坊守が適任であると説明された。納得したのと同時に、寺に身をおく女性、坊守としての存在意義を改めて感じる機会となった。

第２回　2018年10月18日/参加者27名
テーマ：寺に住まいする者として
講　師：譽田和人　師

名聞に執着する自分（蓮如上人御一代記聞書154）、老少善悪で評価する自分（歎異抄１）に気づくか。気付かされるのは他力の働き。安住しきれないことが人間の深さ。聞法はライブ、一回限り。説明を覚えて次回にということはない。「家を出たのが仏法」（安田理深）

宮沢賢治が病床から教え子に宛てた手紙と三島多聞先生が亡くなられた奥様の一年目の祥月命日に記された「祥月命日」を紹介していただきました。「祥月命日」の詩文には、坊守と名告り漫然と寺に住まっている自分を「行者宿報」の偈に立ち戻って省みよ、と叱り飛ばしていただいた思いでした。

第３回　2018年11月７日/参加者40名（於高須別院）
講　師：山口屋仏壇店専務取締役　河合祐介　氏
テーマ：真鍮仏具のお磨き方法

１　大きめのたらいと20倍に薄めた錆取り洗浄液を準備する。（洗浄液はたらいの深さ5センチ程度）洗浄剤内に仏具を入れ、強めに擦る。汚れが落ちにくい仏具はキッチン用の硬めのスポンジやスチールウールを使用する。洗浄液は繰り返し使用してよい。
２　水でよく洗い、**タオルで水気をしっかり拭き取る。**
３　光沢を出すため、**少量の**金属磨き剤で磨く。
４　タオルで仕上げ拭きをする。

【注意事項】①輪灯と菊灯は金属磨き剤を使用する。具足類は錆取り洗浄剤を使用する。②金属磨き剤はつけすぎない。仏具に金属磨き剤をつけるのではなく、金属磨き剤をつけた布で仏具を磨く。（溝に研磨剤が入り白くならないようにするため）③仕上げ拭きは綺麗なタオルを使用する。

【感想】洗浄剤導入はお磨きの「技術革新」。金属磨き剤が正しく使われていないケースが多く、講習会を開いて理解を求めているそう。お磨きを巡る御門徒さんとの「新旧攻防」ですが、気長にご理解を求めましょうとのことでした。

第４回　2019年２月１日/参加者36名　テーマ:声明講習　講　師：日野大英　師

お願いしていた高須別院列座安田英樹師が急な体調不良となられ、急遽講師をお引き受け下さいました。第１回研修会でも実技指導を受けましたが、本講習でも各自、御経等を持参して、頂戴の仕方から教わり、参加者皆で小経、正信偈を読ませていただきました。一部をプリント配布していただいた大阪教務所発行「真宗大谷派儀式作法の心得」改訂版（ピンク）は在庫切れですが旧版（ブルー）は在庫在り。購入可能です。

第５回　2019年３月12日/参加者35名
テーマ:お寺と共に生きるということ　講　師：三島清圓　師

昨年度の高山の連区研修と同様、資料映像を使っての御講話でした。冒頭「タイトルとは異なるけれど、親鸞聖人と後鳥羽上皇について話を……」と始められました。歴史についてはとんと疎いことから、きょとんとしていると、お話は教行信証後序、歎異抄裏書の紹介を導入部として、承元の法難の経緯、貴族仏教に対する民衆仏教、正像末和讃の中の悲しみと怒り（専修念仏にあたをなす～、念仏誹謗の有情は～）に言及しつつ、後鳥羽天皇・上皇の人となり、隠岐配流後の後鳥羽上皇と聖覚法印の交流、念仏弾圧の張本人が念仏者となり著した無常講式が存覚上人の法語に引用され、さらに蓮如上人の白骨の御文となって伝えられていると教えていただきました。

御講話の最後のところで、御自坊や御自坊での行事、御門徒さん方の写真を見せていただきました。お斎を復活させたというお話をお聞きして、頑張って続けようという気持ちになりました。

若坊守研修会　第六組　康安寺　谷　純子

二〇一九年四月二十四日・二十五日の両日、真宗本廟・和敬堂・研修道場において第二十一回若坊守研修会が開催され、全国の若坊守五十五名(うち保育室利用十五名)が参加しました。テーマは「語りましょう！見つけましょう！お寺の在り方、私の生き方」。開催趣旨は、現代社会の中で、寺に生きる人間として私一人に願われている課題を共に証したいというものでした。

講義の講師は京都教区山城第五組正蓮寺住職の平原晃宗先生でした。講題は「今さら聞けない、けれど知りたい正信偈」。正信偈とは何か、という基本からお話いただきました。

夕事勤行・夕食後は班別座談でした。平原先生の講義を通しての座談はとても盛り上がりました。「今更わからないからといって聞けない、でも本当はわからない」のが自分だけではなかった、という共感が大きな安心感を生みました。座談を通して班員間の距離は一気に縮まりました。普段の想いを話したり、情報交換をしたりと充実した時間を過ごすことができました。

平原先生の講義
（和敬堂講義室）

研修会の願いは「何を解っていて、何を知らないのかさえ『ワカラナイ』。わからない！から始めましょう。知らないからこそ見えてくる世界が、きっと、私の生き方、お寺の在り方を照らし出してくれるはず」でした。「わからない」ことで不安になるのではなく、わからない、知らない自分を受け入れる。そのことの大切さに気づかされた研修会でした。

2019年度大垣教区坊守会事業計画

テーマ　寺に身をおくものとして

1　坊守研修会（全５回）

◆第１回　2019年９月９日(月)
講師：平等　良香 氏
（福井教区徳永寺住職・准堂衆）

◆第２回　2019年10月24日(木)
講師：譽田　和人 氏（大垣教務所長）

◆第３回　2019年11月
講師：法衣店
内容：衣体の補修

◆第４回　2020年２月
講師：里雄　康意　氏（緑林寺住職）

◆第５回　2020年３月５日(木)
講師：三島　清圓 氏（高山教区西念寺住職）

開催時間：毎回午後１時30分から
※受付開始午後１時から
会　　場：大垣教区同朋会館講堂(第1,2,5回)
高須別院同朋会館広間(第3又は4回)
参 加 費：１回500円

2　住職・坊守追弔会

日時：2019年10月24日(木)
会場：大垣別院本堂
内容：追弔法要・法話（講師：龍　茂樹 氏）

3　大垣・高須別院報恩講・春の法要参詣協力

◆大垣別院報恩講
2019年12月10日(火)～13日(金)
◆高須別院報恩講
2019年12月16日(月)～19日(木)
◆大垣別院春の法要
2020年４月25日(土)～26日(日)
◆高須別院春の法要
2020年４月

4　一日研修会

期日：2020年５又は６月開催予定
※日程・参加費等決まり次第お知らせします。

5　教区坊守委員会（総会）

期日：2020年７月26日(金)
午後１時30分から
場所：大垣教区同朋会館講堂
対象：各組坊守会正副会長

6　教区坊守会常任委員会

期日：適宜開催

7　大垣教区「坊守会だより」

発行：年１回（毎年８月１日発行）
部数：500部

8　東海連区坊守研修会（連区坊守会事業）

期日：2020年５月13日(水)～14日(木)
当番教区：名古屋教区
※日程・参加費等決まり次第お知らせします。

9　真宗大谷派坊守会連盟（坊守会連盟事業）

◇坊守会連盟「坊守研修会」
期日：2020年４月８日(水)～10日(金)
会場：真宗本廟（研修道場・和敬堂）
◇坊守会連盟「若坊守研修会」
期日：2020年４月23日(木)～24日(金)
会場：真宗本廟（研修道場・和敬堂）

10　その他

◇坊守就任研修会・坊守就任式
期日：2020年５月７日(木)～８日(金)
会場：真宗本廟（研修道場・和敬堂）

《お知らせ》

『１・３・４』の事業につきましては、教区坊守会主催の事業でありますので、坊守さん、前坊守さん、若坊守さんふるってご参加いただけましたらと存じます。

2018年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出決算

自　2018年７月１日
至　2019年６月30日

歳入総額　2,573,367 円
歳出総額　2,139,713 円
差引残高　433,654 円

歳入の部

項　目	決　算　額
1 年会費	706,000
2 坊守学習会費	83,500
3 一日研修会会費	264,000
4 連区研修会参加費	403,000
5 教区助成	500,000
6 連盟助成	50,000
7 雑収入	10,405
8 繰越金	556,462
合計	2,573,367

歳出の部

項　目	決　算　額
1 連盟会費	426,400
2 報恩講費	30,000
3 学習会費	198,538
4 一日研修会費	353,654
5 連区研修会費	467,106
6 各組研修助成費	360,000
7 派遣助成費	153,264
8 会議費	37,845
9 機関紙発行費	105,840
10 事務費	7,066
11 予備費	0
合計	2,139,713

2019年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出予算

自　2019年７月１日
至　2020年６月30日

歳入総額　2,633,000 円
歳出総額　2,633,000 円

歳入の部

項　目	予　算　額
1 年会費	706,000
2 坊守学習会費	100,000
3 一日研修会会費	320,000
4 連区研修会参加費	400,000
5 教区助成	500,000
6 連盟助成	50,000
7 雑収入	123,346
8 繰越金	433,654
合計	2,633,000

歳出の部

項　目	予　算　額
1 連盟会費	426,400
2 報恩講費	30,000
3 学習会費	300,000
4 一日研修会費	500,000
5 連区研修会費	500,000
6 災害復興支援費	50,000
7 各組研修助成費	360,000
8 派遣助成費	100,000
9 会議費	40,000
10 機関紙発行費	120,000
11 事務費	30,000
12 予備費	176,600
合計	2,633,000

編集後記

坊守会連盟六十周年記念研修会では全国の坊守さんとの出遇いから、過去から引き継いだものをいただきました。それを教区の皆様にお届けできますことを期待しています。（谷）

「後に生まれん者は前を訪え」の言葉を励みに三十年のあゆみを編集しました。順次過去記事を取り上げたいところですが、バックナンバーの綴に第十六号（平成二一年）がないのです。お持ちの方はご一報下さい。（菅沼）